

全国行脚レポート

岐阜・鹿児島・高崎篇



昨年から全国各地を調査で訪ね歩きました。その中で印象に残った地域をいくつかをご紹介します。

一〇月下旬 岐阜にて
岐阜では教会が中心となり野宿者の支援を行っています。教会にお邪魔したときは、ちょうど炊き出しで配布する衣服の仕分け作業を支援の方々が行っていました。かなり大量にあり、いくつかの衣装ケースが並んでいる教会。
その衣服を配る炊き出し規模は、これまで見た中で最大規模の衣服配布で、ちよとびつくり。まず、くじを引く順番を決め、その順番

で衣服を受け取る順番を決めるというスタイルでした。次々に配られていく衣服、それぞれ自分にあつたサイズ、現在必要な種類を選べるという感じです。炊き出し後のミーティングでも、「サイズの肌着が足りない」とか「男性物の冬用のシャツが無い」と聞かれたなど、野宿者が必要としていると感じられるものを、それぞれが出し合い、「次の機会には用意できるようにがんばりましょう」と牧師さんはおっしゃっていました。

密接に協力し合って支援を行っている。そのうちのひとつの代表格で、当事者が中心になって、脱野宿後の居住支援をしている。本人も野宿を経験されたMさんにお話を伺うことが出来ました。Mさんはこれまで、何人も野宿者をアパートに上げておられる方で、その次の日も二人、保護許可がある見通しだということをお聞きしました。結局、調査を行った三日間のうち五人も保護がおりてました。

他の地域と大きく違うと感じたのは、鹿児島では、野宿者に現在地保護をしてくれるということ。申請書を書く住所が、「鹿児島市町×橋たもと」でもOKということ。そのためなのか、野宿者が多い場所の住所を書き込んである申請書が、あるとかないとか。

生活保護は考えていない、だめだろ」とのこと。最後の一步が踏み出せない様子でした。

して困っているときに、やさしくして助けてもらったから、今度は自分の番、「そんなに出来ないけど、自分の出来ることをやって返していきたい」という言葉でした。実際に、炊き出しの準備のほか、教会でボランティアとして働いておられます。また、仲間とおられる方が強く、野宿をしてるときはもちろん畳の上に乗ってからも、野宿仲間を助けています。

たく見なかつた農業をする野宿者がいます。高齢になつた農家から農地を借りて農作物を作つたり、本人曰く役所から河川敷を借りて農業をして生活をしている野宿者の方がおられました。農地を休耕地のまま放置すると税金が高くなるため、貸しているのだから、食料を自分で作れということ、貸しているのでもしょうか？そうであればほほえましいですね。(1)

密接に協力し合って支援を行っている。そのうちのひとつの代表格で、当事者が中心になって、脱野宿後の居住支援をしている。本人も野宿を経験されたMさんにお話を伺うことが出来ました。Mさんはこれまで、何人も野宿者をアパートに上げておられる方で、その次の日も二人、保護許可がある見通しだということをお聞きしました。結局、調査を行った三日間のうち五人も保護がおりてました。

して困っているときに、やさしくして助けてもらったから、今度は自分の番、「そんなに出来ないけど、自分の出来ることをやって返していきたい」という言葉でした。実際に、炊き出しの準備のほか、教会でボランティアとして働いておられます。また、仲間とおられる方が強く、野宿をしてるときはもちろん畳の上に乗ってからも、野宿仲間を助けています。

たく見なかつた農業をする野宿者がいます。高齢になつた農家から農地を借りて農作物を作つたり、本人曰く役所から河川敷を借りて農業をして生活をしている野宿者の方がおられました。農地を休耕地のまま放置すると税金が高くなるため、貸しているのだから、食料を自分で作れということ、貸しているのでもしょうか？そうであればほほえましいですね。(1)

たく見なかつた農業をする野宿者がいます。高齢になつた農家から農地を借りて農作物を作つたり、本人曰く役所から河川敷を借りて農業をして生活をしている野宿者の方がおられました。農地を休耕地のまま放置すると税金が高くなるため、貸しているのだから、食料を自分で作れということ、貸しているのでもしょうか？そうであればほほえましいですね。(1)

一八号・二〇〇七年新年号をお届けいたします。前号でお知らせしました全国調査では、編集スタッフも調査員として全国を飛び回り、その様子を紙面に報告させていただきました。各都市で様々な施策や工夫がなされており、とても勉強になりました。全国各地で調査が行われておりますが、それらを通じて少しでも状況が改善をすればと思っております。



ホームレスの仕事をつくり自立を応援する、ビッグイシュー日本です。雑誌販売に興味ある方は下記までお問合せ下さい。

■連絡先：
06-6344-2260
■住所：
大阪市北区堂島2-3-2堂北ビル4F



ナナコロビヤオキな人々



編集協力 有h-vbde n-nun(n) http://www.h-vbde.net・有地域研究アシスト事務所 http://www.cra-street/

http://www.naniwa-rojo.com/

なにわ路情

野宿者ジャーナル 18号(季刊)

「なにわ路情」がめざすもの
野宿生活者の生活や声をとりあげ、ともに考える新聞です。脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりにかけています。今までのと、そしてこれからのこと、いかに考えていきたいと思います。

いつもなにわ路情」を読んでいただきありがとうございます。新年号をお届けしました。今年も「なにわ路情」をよろしくお願いたします。
前二七号紙上で、「ホームレス全国調査」協力をお願いしました。皆さん宅におじゃまし、ご迷惑をおかけしました。おかげさまで多くの聞き取りが出来ました。あらためてお礼を申し上げます。昨年始まった調査ですが、全国のとくに都心に暮らす人たちが数多くいます。今号は、北海道と沖縄の状況の一部をお知らせしたいと思ひます。また四面に別記者の調査レポートも掲載しています。

北海道札幌市内の聞き取り現場から
一二月二日午後六時の札幌。気温四度で積雪は四五センチほど。市内にはおよそ一〇〇人ほどの野宿者がいる。大通公園さっぽろテレビ塔横の市民会館での炊き出しもセッティングされた。野宿者六〇名ほどが三々五々集まってくる。生活保護者もいる。女性はその割強だ。主催は司法書士支援グループを中心に、教員 大学生のサークル、クリスチャン、ボランティアの青年たちだ。
借金をテーマとした寸劇を司法書士自らが演じ問題点を投げかけ、理髪師の出張散髪が賑わいを見せて



翌日は、借入れ住宅を拠点に生活保護を勧める支援団体の経営するアパートで聞き取りを行った。生活保護で暮らしの拠点を手に入れたのかといえば、生きがい、単身の孤独、アパート経費の負担など、我々が大阪で接する同様の問題がここにもある。野宿後の生活がやはり「ホームレス」になる可能性があるのだ。北海道

いた。長髪の男たちの頭が軽くなり、さっぱりした表情になって戻ってくる。広い会場の窓外は次第に雪が降り積もり、気温が下がり始めるけれど、部屋は、たかさんの当事者支援者 我々調査員たちの体温を感じるくらいに暖かかった。
食事やアトラクションなどが終わり一段落したころ、調査員六名が聞き取りを始める。それぞれ平均二名の聞き取りが出来た。北海道の特色だが、気候の厳しい場所柄から当然テント生活者はほとんどなく、空調設備のあるビルや地下街、地下鉄階段などを拠点に暮らす人たちが多くいる。聞き取りをしたAさんは関東の出身で、仕事を探しながら北へと流れ今は札幌に定着している。身体は頑強で、仕事への意欲も見せているが、どこかで自分を捨てている様子である。それは、どこまで行っても出口の見えない野宿の現状と自らのふがいなさを責め苦しんでいる姿と見えてしまう。

の取り組みでは、それぞれの持ち場・得意技を動機に、支援活動を続けている人たちの現状が見えた。
沖縄県那覇市の聞き取り現場から
一二月一〇日午前一〇時過ぎの那覇市。雲はあるが晴れ。すこし汗ばむほどの天候。支援団体であるAキリスト教会が教会内で主催する炊き出しに向かう。この教会は、野宿者に宿泊所として提供をし、仕事づくりもしていた。また、市内各所にあるコンビニなどと提携し店外にドラム缶を設置、捨てられた空き缶を収集するK団体の取り組み、ユニークな野宿者支援基金づくりをしている。ミサがすんだ後、炊き出しのカレーが配膳された。我々七名の調査員もカレーを頂き、聞き取りを開始した。聞き取りをしたBさんは五〇歳代で、決まった場所を持たず那覇周辺を移動して炊き出しには現れる。しかも妻や子どもと一緒に行動している。仕事への意欲はあまり見えず、いつか生活保護などにもそれほど関心なく、人が集まる歓楽街に家族と一緒に行くのが楽しいと言っている。アンケートなど調査の数値に現れにくい人たちが。何かの基準に当てはめるとスルリと抜け落ちていくような

この日夕刻の余儀公園や、翌日の松山公園やテントのある若狭公園で聞き取りもあるが紙数が尽きた。関東から来たC君は家庭問題のわずらわしさで南へ流れてきた。北海道のAさんとは逆方向といえるが、二人の気持ちはどこことなく共通している。今も記憶に残る。

気候温暖な沖縄はテント生活者はそれほど多くなく、墓地 沖縄は墓を大切に、家族の墓以外に一族の門中(ムンチュウ)墓を作るため巨大な墓が多い。門構えやほこらがある死者の家のよう()に起居する人たちもいる。教会を後に、浦添市内にある土木建築企業を尋ねた。ここには元野宿者で当教会から推薦されたBさんが雇用されている。Bさんの仕事への貢献とは別に、私的にプレストやネットレスなど装飾品を作るのが得意だと言つ、「女性にあげると喜ばれます。彼女にもあげました。なるほど。Bさんの技術は、これからも恋を養つ大切な道具になるのだろ。

紙面	1 寒中見舞い申し上げます 全国調査のご報告です	3 ひとつちギャラリー
	2 路上から路情へ 川崎からのレポート	4 全国行脚レポート、岐阜・鹿児島・高崎篇
	2-3 連載(第四回):路上から路情へ 振り返り今思う PART3	4 マンガ「ナナコロビヤオキな人々」
	3 虹の連合、ホームレス全国調査 中間速報	4 編集後記

発行元
なにわ路情編集局
〒530-8090 大阪中央郵便局留
「なにわ路情編集局」係
tel 080-3767-7989
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp
http://www.naniwa-rojo.com/
郵便振替口座番号
00900-5-222740 なにわ路情編集局

編集後記



